院内がん登録の実務者が自ら相対生存率を計算できるために

ー宮城県・東北地方での取り組みー

金村 政輝[1 2 3]　佐藤 真弓[2]　齋藤 美登里[3]　鈴木 柾孝[2]
新田 彩子[2]　柳田 美咲[4]　吉田 めぐみ[4]　本山 悟[4]
[1]宮城県立がんセンター研究所がん疫学・予防研究部　[2]宮城県立がんセンターがん登録室
[3]公益財団法人宮城県対がん協会　[4]秋田大学医学部附属病院腫瘍情報センター

【目的】

全国がん登録が開始され[1)]、院内がん登録の実施に係る指針も示され[2)]、今後、都道府県から予後情報の提供を受け、精度の高い生存率の計算が可能になる。がん診療連携拠点病院においては、生存率を含めた集計結果を適切に評価・比較・公表することが期待されている。しかし、現況報告を見ると、生存率の算出は 30%台と実施率が低い（図 1A・B）[3)]。さらに複雑な計算を要する相対生存率は自前で計算することは難しい[4)]。そこで、今回、宮城県・東北地方において相対生存率の計算を目的とした研修会を開催したので報告する。

図 1A　現況報告での生存率の把握状況

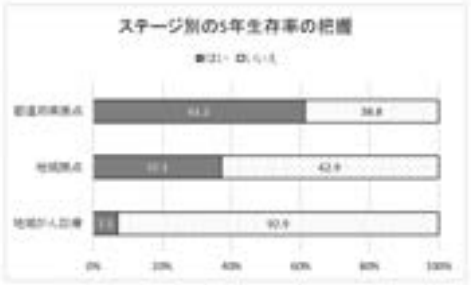
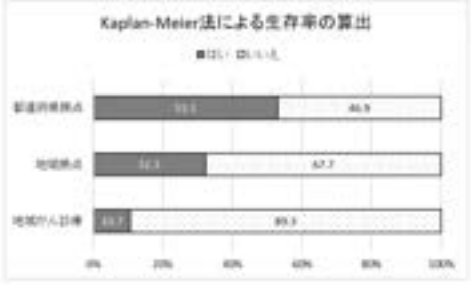


図 1B　現況報告での生存率の把握状況



【方法】

宮城県と秋田県において研修会を開催した（県がん診療連携協議会がん登録部会主催）。資料とプログラムは、宮城県立がんセンターでの勉強会を通して開発・修正を行った（図 2）。相対生存率の計算に際しては、千葉県がんセンター研究所の三上春夫部長が開発した相対生存率計算ソフト Kapwin[5)]を承諾を得て無償配布とした。研修会の終了後、参加者に対してアンケート調査を行った。評価や理解に関する項目については 5 段階で回答を求め、質問、意見、要望等については自由記載とした。

図2 研修会の資料とプログラム

【結果】

宮城県の研修会は 90 分間のプログラムで、19 人が参加し（95%が診療情報管理士）、17 人（89%）がよかったと評価し、18 人（94.7%） が理解できたと回答した。秋田県の研修会は 1 日のプログラムで、20 人が参加し（75%が診療情報管理士、20%が事務職）、全員がよかったと評価した。なかでもモデルデータを使った演習の評価が高く（図 3）、内容については、すべての講義・演習で 85%以上が理解できたと回答した（図 4）。がん登録の実務経験年数で比較したところ、5 年未満の実務者では「少し理解できない」との回答が見られた（図 5）。88% が研修会の資料やモデルデータについて役立つと回答し、82%が今後自分で計算してみようと感じ、65%が自施設に戻っても自分で計算できそうと回答した。94%が他の方にこの研修会を勧めると回答した（図 6）。自由記載では、有意義であったと評価する記載がほとんどであったが､自施設での計算に不安を感じるとの回答が 1 件見られた。

図3 よかった内容

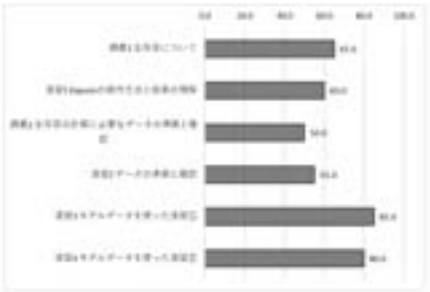


図4 内容についての理解

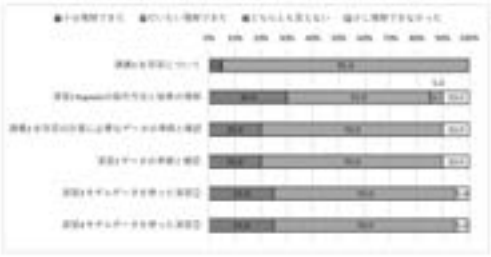


図5 モデルデータを使った演習②の理解

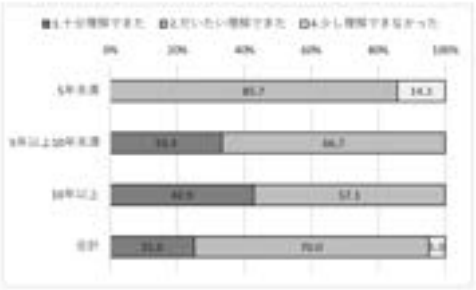
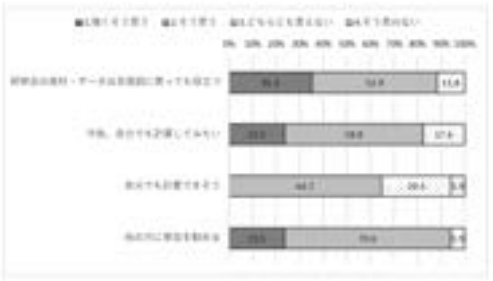


図6 感想



【考察】

宮城県・東北地方において、相対生存率を計算することを目的に 90 分間及び 1 日のプログラムを開発し、研修会を開催した。約 90%がよかった、理解できたと評価し、開催する意義が確認できた。今後は、実際に自施設で計算できるよう質問への対応などのサポート、EdererⅡ法など他の計算方法[6,7]での実施が課題である。

【謝辞】

本研究及び研究の対象となった研修会は、 相対生存率計算ソフト Kapwin の無償配布なしには実現しませんでした。無償配布について、ご快諾いただきました千葉県がんセンター研究所の三上春夫先生に心より感謝申し上げます。

【COI 開示】

当演題発表に関し、開示すべき COI はありません。

引用文献

1) 国立がん研究センター. がん情報サービス
https://ganjoho.jp/reg_stat/can_reg/national/public/about.html（2018.7.9 アクセス）
2) 厚生労働省.
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000108673.pdf（2018.7.9 アクセス）
3) 金村政輝:全国のがん診療連携拠点病院における院内がん登録の現状分析－実施体制と実績との関連－. 日本公衆衛生雑誌 64(10)特別附録:386, 2017.
4) 金村政輝:すべての病院で相対生存率の計算ができるために－期待生存率の計算ツールの開発－.日本公衆衛生雑誌 63(10)特別附録:382,2016.
5) 三上春夫:がん登録の行く末～社会に向けて.JACR Monograph17:6-10,2011.

6) Cho H, Howlader N, Mariotto AB, Cronin KA. Estimating relative survival for cancer patients from the SEER Program using expected rates based on Ederer I versus Ederer II method. Surveillance Research Program, National Cancer Institute; Technical Report #2011-01,2011.
7) Roche L, Danieli C, Belot A, Grosclaude P, Bouvier AM, Velten M, Iwaz J, Remontet L, Bossard N. Cancer net survival on registry data: use of the new unbiased Pohar-Perme estimator and magnitude of the bias with the classical methods. Int J Cancer;132(10):2359-69. 2013.